



# SecDogo Digest

第1号

2024年3月8日 金曜日

## 開会あいさつ

小林真也実行委員長により開会のご挨拶を頂きました。また開催地を代表して松山市副市長 松原剛史 氏からご挨拶をいただきました。また顧問を代表して辻井 重男 先生からご挨拶をいただきました。



小林真也 実行委員長



松原剛史 松山市副市長



辻井 重男 顧問

## 基調講演

テーマ「我が国のサイバーセキュリティ政策」について、山内 智生 氏（総務省 サイバーセキュリティ統括官室 サイバーセキュリティ統括官）による基調講演が開催されました。



山内 智生 氏

我が国のサイバーセキュリティにおける現状と取り組みについて焦点が当てられました。シニア SecDogo Digest, サイバーセキュリティシンポジウム道後 2024

層も含めたスマートフォンの普及やテレワーク制度の定着により、サイバー空間でのフィッシング詐欺やランサムウェア攻撃などの脅威が増大していることや海外ならず、近年我が国でも深刻なサイバー攻撃が発生しているという説明をされました。

取り組みとしてサイバーセキュリティ推進体制、重要インフラのセキュリティ強化や国際連携を推進していること。さらに、個人や組織へのセキュリティ脅威への対応やAI事業者へのガイドライン案など、様々な取り組みが紹介されました。サイバー攻撃への対応には、DXとサイバーセキュリティはセットで実施することが重要であることが強調されました。

## 講演（1）

テーマ「デジタル社会におけるサイバー空間の脅威への対応」について、佐々木 彩乃 氏（警察庁 サイバー警察局サイバー企画課 課長補佐）に講演を行っていただきました。



佐々木 彩乃 氏

サイバー空間の公共空間化の加速、安全保障、先端企業、国際行事などに関する情勢が述べられ、国内ではサイバー空間の脅威が続く状況にある。脅威の例として、高い水準のランサムウェアの被害発生、手法の巧妙化・多様化、被害や復旧に要した時間や総額が示された。また、先端技術や研究の窃取を目的としたサイバーインテリジェンスの可能性が示唆されている。その例として標的型メール攻撃、脆弱性を利用した攻撃、海外拠点（サプライチェーン）からの侵入などの手口が説明された。また、クレジットカードやEC事業者を装ったフィッシングの件数が増加している。それにともないインターネットバンキングやクレジットカード不正利用が増加しており、特にインター

ネットバンキングについて不正送金が 2023 年に過去最悪に発生している。

警察庁サイバー警察局は、サイバー関係の捜査を行う組織である。取り組み事例として、LockBit ランサムウェア被疑者の逮捕や犯罪インフラの閉鎖、インドネシア当局との協力によりフィッシング事犯（フィッシングツール 16SHOP）被疑者の逮捕、暗号資産の追跡操作、などについて紹介された。また、サイバー攻撃の攻撃者を公表し非難することでサイバー攻撃を抑止する取り組み「パブリックアトリビューション」の実施、AI の活用、サイバー被害の潜在化の防止、注意喚起がある。これらの対策に関する議論の場として関係機関や有識者などとの検討会の開催している。